



RAKUNO GAKUEN UNIVERSITY

酪農学園大学

出会い

No. **78** 2018. 4. 5

キリスト教教育委員会



構内を歩く学生と牛 (広報室提供)

「神に従う人は家畜の求めるものすら知っている」(箴言12:10a)

生涯の能動的な趣味につながるような課外活動に

積極的にチャレンジしてください。 循環農学類教授 義平 大樹

あなたは選ばれた——何のために？ 獣医学類准教授 蒔田 浩平

カセサート大学に留学して 獣医学類6年 大竹 令倭

本学の建学の精神 環境共生学類教授 押谷 一

生涯の能動的な趣味につながるような課外活動に積極的にチャレンジしてください。



マラソン大好き人間

皆さん、入学おめでとうございます。循環農学類 作物学研究室の義平 大樹です。趣味はマラソンで、走る事が大好きです。学内の移動中に力んだフォームで走っている後期中年のオジサンを見かけたら、それはきっと私です。初めてフルマラソン(42.195km)にチャレンジしたのは大学4年の時で、完走できた時には非常に感動しました。それから30年、なんとか趣味として続けております。今では、週2回程度の練習がやっとですが、その時間は、私にとってかけがえの無いひと時となっています。練習後は大変リフレッシュして次の仕事を頑張ろうと切り替わります。

フルマラソンに挑戦してみませんか？ ゴールには新しい自分が待っています。

皆さん、42.195kmはとてつもない遠い距離だと思いませんか？それは誤解で十分走りこなせる距離です。ある程度の一定期間の訓練は必要かも知れませんが、体力を小出しにすれば十分に持つ距離です。一度完走できると、42.195kmをこなすイメージが生まれ、回数を重ねると、この距離を乗り越える自己流の方法ができ、自信がつけきます。

マラソンを始める前の私は、対人恐怖症で、集団の中になかなか溶け込めずネガティブ志向でした。中学・高校と男子校だった事もあり、同期の女子学生と顔が赤らんでうまく話せないほど恥ずかしがり屋の人間でした。勝負ごとには非常に弱く、自信がなかった私もフルマラソンの完走を重ねるうちに、「継続してやれば、何事もなんとかなるじゃない」と楽観的な価値観が強くなり、自分なりのペースに自信を持つようになってきました(今では度が過ぎて、計画性のない楽観主義で、周辺の人が

循環農学類教授 義平 大樹

はた迷惑しております(笑))。

42.195kmを乗り越えるのが面白い

週3回程度、楽に10kmを自分のペースで走り、疲れがたまらず、体調が良く体が軽くなってきた感覚を3ヶ月続けることができれば、フルマラソンを十分完走できる能力は備わっています。レース前の調整も経験が必要ですが、アドバイスを受けながら、試行錯誤しつつ自己流をつかめば、それで大丈夫です。

フルマラソンを走る3~4.5時間にいろいろな思いが巡ります。将棋にたとえると、練習を積んで体調がよければ、多くの持ち駒がある状態、練習不足の場合は、「歩」しかない状態です。今の自分の状態で、今ある持ち駒を使って42.195kmを詰めていくかを常に考えて走ります。

30kmを過ぎると、筋肉に乳酸がたまってきて、Paceダウンすることが多いのですが、その失速をいかに少なくするには、どんなペースで走るべきか？

$$\text{記録} = \int_0^5 (P1) + \int_0^5 (P2) + \dots + \int_0^{42.195} (P9) \quad (\text{分}/42.195\text{km})$$

$$\text{最適Pace} = f(\text{気象条件, 体調, 練習量, ケガの状態, 走力, モチベーション}) \quad (\text{分}/\text{km})$$

$$\text{最適Pace} = \text{Pace}(\text{Minimum}(\text{標準偏差}(P1, P2, \dots, P9))) \quad (\text{分}/\text{km})$$

という関数の答えを自分の感覚で、解きながら走るのが大変面白い。自分としてベストを尽くしているつもりでも、なかなか今の自分の状態が分らず、最適Paceをオーバーすることが多いです。

フルマラソンを完走する価値は、タイムではありません。その人なりのベストを尽くしていることが最も美しいと感じます。楽にケガなく、完走するために、その人なりの

最適Paceを考えることが大事です。

本当のレースの始まりは、ランナーズハイが切れた30km過ぎから

マラソン嫌いの方は、「42.195kmの長い間、苦しみ続けるのは、まっぴらごめん」と思われているかもしれません。しかし、自己流ペースができてくると、苦しいのは、最後のゴール前5～10kmのみで、その間はランナーズハイ（有酸素運動を続けると気持ち良くなる脳の状態）の状態にあり、苦しくなく、むしろ挑戦している自分に酔っている状態です。ここまでは、上記の関数のことなどが頭を巡っています。ところが、30～35km程度走ると筋肉に乳酸がたまり、ランナーズハイが切れてきます。ここからが本当のレースが始まります。この時は、複雑な事を考える余裕はなくなり、メンタルとモチベーションで走ります。

音楽もスポーツと同様に自己を鍛える要素を持っている。

私のセカンドホビーは、40歳を過ぎてからの「どん臭いオジサンピアノ」で、細々と続けています。小学生に混じり、発表会に5回出たことがあります。（下手なりに）聞かせる立場に追い込まれた時の自己コントロールの世界に魅かれます。音の正確さ、曲想、微妙な強弱などなど繊細な気配りを、意識しないで弾けるようにすることの奥深さを感じます。子供たちがオジサンと違い、右脳でこれらをつかみ取り弾く姿をみると、「若さって素晴らしい。」と感じます。ピアノを始めて、音楽によって鍛えられる世界が存在するのを知りました。

能動的な趣味と受動的な趣味

最近、多くのネット上のゲームが普及し、簡単にケータイなどで楽しめるようになりました。しかし、これは自分が体を動かしたり、自分自身で想像力を働かせたりすることがない、多くの場面設定が固定的な受動的な世界です。それに対して、実際にスポーツ、音楽、他の芸術をするというのは、自分の体を使い、五感を研ぎ澄ませて工夫する能動的な世界です。受動的な趣味は、癖（くせ）になり、自分がコントロールできない世界に陥ることがあります。その典型的例がゲーム

やパチンコ、スマホ依存症です。

人間の脳の活動には、意識の働いている部分と無意識の部分とがあり、後者はバーチャルな世界も現実の世界も区別できないと聞いたことがあります。受動的な趣味で満たされる脳は後者であり、前者は本当の意味では満たされていないような気がします。

一方、能動的な趣味は、上達のために自ら頑張り創意工夫すると、心が鍛えられます。また、上達した時には達成感があり、心の底から感動します。皆さんが、卒業して社会人となり、学生時代ほど時間が無く、そのスポーツや音楽を続けられなくなったとしても、若い時ほど体が動かなくなったとしても、鍛えられた心は必ず残ります。

生涯の趣味としての位置づけ

社会に出ると、思い通りにならない事や仕事上で一時的に頑張らなければならぬ事の連続です。仕事や家庭で頑張らなければならない時、若い時に能動的に参加した課外活動によって鍛えられた心が、困難な状況を乗り越える原動力となります。

また、能動的な趣味があるから心身がリフレッシュして、仕事ができる。家庭、仕事に忙しい中、趣味の時間を少しでも確保するために、集中力を持って効率よく仕事をこなして、家庭とも誠意を持って接する。仕事と家庭と趣味が相乗効果となり、生活に張りがあるような、生涯の能動的な趣味や社会とつながる接点となる課外活動に、ぜひ積極的にチャレンジしてほしいと思っています。

終わりに

趣味・課外活動で大事なことは「継続は力なり」という事につきます。これを思い出す時、下記の聖書の言葉を連想します。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。（マタイ7:7-12）」

（仕事、家庭、趣味を両立できる環境を与えて下さっている神さまと、家族をはじめ周囲の方々に感謝しつつ……）フルマラソンに挑戦したい人は、気軽に声をかけて下さい。いろいろアドバイスできると思います。

あなたは選ばれた——何のために？



獣医学類准教授 蒔田 浩平

みなさん、御入学おめでとうございます！みなさんとこれから卒業まで一緒に学べることを、とても嬉しく思います。今、この「出会い」を一人一人、不安や期待など様々な気持ちを持って手に取っていると思います。この大学に憧れて来た人もいれば、あるいは第一志望ではなく来ている人もいるかも知れません。また、将来の展望を描けていない、と焦っている人も、あるいは親にとりあえず大学だけは行けと言われて、という人もいます。どのような状況であれ、心配ありません。なぜなら、聖書にこう書いてあるからです：「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたを選び、あなたがたを任命したのです(ヨハネの福音書15章16節)」。

ここで言う「あなた」はこれを読んでいるあなたで、「わたし」は聖書の神様です。面白い言葉だと思いませんか？これまで自分に任命や命令してきたのは親兄弟や先生だったと思います。積極的な方はクラスや学校の委員

に立候補したことはあるかも知れませんが、自分で自分の道を決めているようで、あるいは自分の思ったとおりに行かないと悲しんでいても、大切な何かのためにあなたは選ばれてここにいる、とここでは伝えていきます。それでは何のために？

それは、私たちが実を結び、その実が残るため(16節)、と言います。実を結ぶための方法は、選ばれた私たちが聖書の言葉を自分の中にとどめて(7, 9節)互いに愛し合い(12, 17節)、その喜びに満たされ(11節)、そして欲しいものを求める(7, 16節)こと、と書かれています。そしてその実とは、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、柔和、自制です(ガラテヤ5章22, 23節)。

これを書いている私は本学の卒業生ではないですし元々クリスチャンではなかったのですが、獣医師になって初めて勤めた埼玉県川越家畜保健衛生所の上司と、その後青年海外協力隊員として派遣されたネパールでお世話になった先輩が本学卒で、二人に共通していたのはそれまでの自分の尺度には

ない人間力でした。このような人たちといると、振り返ってみれば不思議と「実」が欲しくなって、それを求めていると、知らない間に「実」が与えられそれに囲まれているものです。2010年に発生し29万頭の動物の命が失われた口蹄疫、2011年の東日本大震災では復興活動の中で、苦難の中においても多くの出会いに恵まれました。そして国外に目を向けてみると、タイ、ベトナムなどのアジア諸国、ウガンダ、タンザニアなどのアフリカ諸国と欧米、数えてみるとこれまで何と20カ国以上の国々で活動し、年齢、性別、国籍、言語、職業、宗教、経済状況の異なる多くの仲間が出来ました。

ネパールでは電線はあっても電気が来ない、また水道のない高地の山村に住んでいました（写真）。電話もないので首都カトマンズから村に緊急連絡をするには、長距離バスの運転手に手紙を渡すのです。政情不安定で爆弾テロや交戦が多発し首都に強制退去していた時、田舎の同じ孤児院で育ったというオンボロタクシーの若い運転手二人と仲良くなりました。彼らは身よりもなく同じ部屋で暮らし貧しかったのですが、祖国から二年間離れて暮らす私によく付き合ってくれました。任期満了で帰国する日、普通はJICA（国

際協力事業団：当時）の所有する高級な車両で空港に向かうのですが、この友人二人がどうしても言うので、私と今は妻となった友人と二人だけ、JICAの立派な車両の後ろに付いて、小さなオンボロタクシーで送ってもらったことを、とても誇りに思ったものでした。

今からもう18年も前の話なのですが、どこでどう探し当てたのか昨年Facebookでこのドライバーの一人から連絡があり、綺麗な奥さんと結婚して子供にも恵まれ、幸せに暮らしていることが分かりました。

さて、選ばれた皆さんにはどんな出会いが待っているでしょう。ほら、隣に座っている人、キャンパスを歩いているたくさん同級生、先輩、教職員。互いに愛し合い、大いに「実」を求めてください。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられる（ヨハネの福音書15章7節）でしょう。



ネパール王国（1999年当時）ジリ村で茶苗普及による村落開発を実施

カセサート大学に留学して



タイ、カセサート大学への交換留学

文科省の世界展開力事業の一環で酪農学園大学、北海道大学、東京大学、東京農工大学の4大学とタイのカセサート大学との間で行っている単位互換をともなう獣医学部生同士の交換留学プログラムに参加してきました。

2016年9月9日から12月11日までの3か月間交換留学生としてタイのカセサート大学の獣医学部へ留学しました。この3か月のカセサート大学と本学の交換留学は今年で4年目のプログラムで私たちの先輩も留学をしていました。この年は私たち獣医学部の5年生15名が派遣生としてカセサート大学へ送られました。

カセサート大学はタイで3番目に古く最も権威のある大学の一つで、タイではもちろんのことアジアの中でもトップレベルの大学です。キャンパスは7か所あり、私たちはその中のバンケンキャンパスとカンペンセンキャンパスという2つのキャンパスで授業を受け、実習を行いました。

バンケンキャンパスは首都バンコクのバンケン区にあり都会的な場所でした。近くにはセブンイレブンやスーパーマーケットが多くあり買い物には困りませんでした。また週末にはバンコクの中心部へ出かけることもできました。

バンケンキャンパスでは統計学、疫学、微生物学、病理学、伴侶動物の内科外科を学びました。ここではタイの先生と私たち日本の学生とで授業や実習を行いました。タイの教授陣はとてども教育熱心だと感じました。統計学、疫学の授業ではタイのゴミ処理場を訪れてそこにある問題を見つけそ

獣医学類6年 大竹 令倭

れに対する研究計画を立てるという課題があったのですが、その中で何度も先生と話をしダメだしやアドバイスをもらいました。その授業の2週の間何度も先生や友達とディスカッションをし、最終的には先生にOKを頂けるレポートを完成させることができました。

伴侶動物実習はカセサート大学の付属動物病院で行いました。付属動物病院は7階建ての建物でそれぞれのフロアで診療科が分かれているという日本でも類を見ないような大きな病院でした。病院の中では担当のドクターについて回り患者さんに問診をとったり、手術の助手に入ったりしました。ドクターは私たち日本の学生に何でも積極的にやってみるように言い、手術助手では器具出しの他に皮膚縫合をする機会を頂きました。日本では縫合はぬいぐるみを使って練習しましたが、実際の手術の中で縫合をするということは学生の間では無いことなので大変貴重な経験になりました。このように実際の現場に近いかたちで実習できる教育病院の有り難さを強く感じました。また、他大学の日本人学生と同じ班になり



ドクターから担当犬についてのアドバイス



タイ料理のカオマンガイ



ゾウと2ショット

勉強で助け合うこともありました。

1か月半のバンケンキャンパスの実習を終えるとカンペンセンキャンパスに移動しました。カンペンセンキャンパスはバンケンから車で2時間ほどのところにあります。バンケンに比べると田舎で、買い物に行くにも少し不便な場所だったので大学から自転車を借りて生活をしていました。都会的な場所ではないですが広大な土地と自然がありました。学内にゴルフ場やスポーツができる場所が多くあり休みの日にはスポーツを楽しむことができました。また通学する道の真ん中に2m近くあるミズオオトカゲがいることがあり、身近な野生に驚きを感じました。

カンペンセンキャンパスでは日本人3人とタイ人7人の合わせて10人の班で実習を行いました。大動物と野生動物を中心に実習をしました。

牛に関する実習では大学病院とノンポー病院で来院した牛や羊を診察したり、先生と一緒に近くの農家へ往診に行きました。直腸検査をする機会が多く、少しは直腸検査の腕が上達したのではないかと思います。また注射や採血をすることも多く、日本での実習不足を補えました。昨年まで見ることができていた口蹄疫の症例を見られなかったのは少し残念でした。

馬に関する実習では班ごとに1頭の馬を与えられ世話をしました。私は馬に触ること自体は初めてだったので毎日が勉強の連続でした。また、病院に来た馬の症例について班員と議論し最終日にプレゼンテーションをしました。ここでは日本にはない

感染症の症例が見られ、それについて深く学ぶことができました。

エキゾチックアニマルの実習では病院で実際に診察を行いました。カメ、トカゲ、鳥、リス、モモンガ、ハムスターなどの様々な動物の診察を体験できてとても楽しかったです。ワイルドライフユニットではゾウの削蹄を見学しました。日本では体験できないことなので貴重な経験になりました。

カンペンセンキャンパスでは毎週末プレゼンテーションがありました。その準備では班員のタイの学生に助けてもらったことが多くありました。彼らは日本人の学生よりも英語が堪能だし、とても優しく彼らは私たちの留学生活にとってかけがえのない人たちでした。

3か月間を通して様々な出会いがありました。助け合った他大学の学生、親切なタイの教授陣、タイでの生活のほとんどをケアしてくれたタイの学生、皆が素晴らしい人たちでこの出会いは私の宝になりました。留学して本当に良かったと感じます。



修了証授与

本学の建学の精神



環境共生学類教授 押谷 一

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

酪農学園大学は、みなさん一人おひとりを迎える準備が整いました。これからの学生生活が有意義なときとなるよう、私たち教職員、先輩方はみなさんを様々な面で支えて参りますのでご安心下さい。

わたしたちの酪農学園大学には、創立者である黒澤西蔵先生が提唱された「三愛精神」と「健土健民」という建学の精神があります。これから様々な場面でこれらの建学の精神を学ぶこととなりますがここで「三愛精神」について少し触れてみます。

三愛精神とは「神を愛し、人を愛し、土を愛する」ことであると黒澤西蔵先生は述べておられますが「神」とは何なのでしょう。酪農学園大学はキリスト教にもとづく教育や研究を行っていますので神とはキリスト教の神様のことですが、もう少し広い意味で捉えるべきと考えます。すなわち、神様とは、わたしたちを支え、導いてくれる地球のことだということです。地球上で起きている事柄にはわたしたちには容易に説明できないことがたくさんあ

ります。みなさんは、大学でこうした説明できないことを明らかにすることに挑戦していくこととなります。そのためには、自然や生命など地球上のさまざまな出来事に対してある種の不思議さを感じ取る感性 (sense of wonder) を持ち続けて下さい。挑戦には苦難が伴うことと思いますが、聖書にはつぎのようなことばが書かれています。このことばとともにいろいろなことに挑戦していけばきっと希望が生まれてきます。

学内の建物の壁にこのことばが英語で書かれています。この一節が書かれている場所を探すことから大学生活を始めてみませんか。

「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」

新約聖書

ローマの信徒への手紙5章3-4節



広報室提供

あ と が き

今回の号は、内容的に宗教・スポーツ・国際貢献・海外留学・勉強・建学の精神とバランスのとれたものになっ

たと思います。新入生の皆様がいろいろな活動を通じて「リア充」を経験できますように！ (Y. T.)

酪農学園大学キリスト教教育委員会
〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
Tel. 011-386-1111 (代表)



酪農学園大学は、2014年に創立100周年を迎えます。この機会に、酪農学園大学の歴史と伝統を、この冊子を通じてご紹介いたします。



(酪農学園大学公式サイト)